

**第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評**  
**ショパニスト A 部門**

●審査員 A

演奏者の強い意志が感じられました。ただ残念ながら、時折音楽的な理解が足りないことも見受けられました。練習を始めるときはいつも必ず、曲の各フレーズがどのような性格のものかを明確にイメージし、それを実行するために適切な身体の動きをよく考えましょう。

●審査員 B

音大でピアノ中心の勉強をしている方々に比べ、よりアグレッシブな表現が聴けてよかったです。ただしペダリングやルバート、ソルフェージュ的な部分に幾分かの不満が残ったのも確かです。冒険精神も持ちながら、きめの細かい勉強も忘れないで下さい。

●審査員 C

他の分野でご活躍されながらショパンの大曲をご準備されるのは音楽に対する深い想いがあつてのことと尊敬しながら聴かせて頂きました。

ショパニスト A 部門の参加条件にはない音楽学校の在学者のような立派な演奏もあり、楽しめました。若々しい皆様が今後とも良い聴衆でもあり続け、また日本の音楽の世界を支えて下さるのではと期待いたします。

●審査員 D

曲のキャラクターを捉えて、よく歌い上げている。しかし緊張感の中で、呼吸、タッチが浅く浮く為、一音一音の響きが薄くなる。(楽器に弾かれてしまうのではなく楽器を操る) 特に響かないピアノにぶつかった時、どうしたらよいか？

常日頃から指先のタッチの意識をもって、イメージした音を聴く、ひびかせる訓練が必要です。

●審査員 E

大きな作品に意欲的に取り組んでいらっしゃる素晴らしいと思います。

ペダリングや解釈について、もう少しご自身の演奏に耳を傾ける時間をしっかりと持つことができるとと思います。

●審査員 F

ショパンの作品が好きで、よく研究されている方が多く見られ伝わり楽しめました。

ブレス、響き、大きなフレーズ、和音を掴む指先、上腕の使い方等、更に良好な展開を目指して下さい。